

「生徒さんたち全員から感想文をいただき、(^_^)v ~」への感想

早速記事を目にして、ちょっと照れちゃう～(*^_^*)、次のような感想をいただいた。

2008. 3. 20. 阿部幸泰

⑥小学校でのお話、とっても素敵な出会いだったみたいですね。

また阿部さんの想いを、先生方や生徒の皆さんが受け止めてくださったのが、とても嬉しいですね。

想いって本当に、伝わりますよね。

少し愚痴っぽくなりますが、〇〇子の卒業式の校長先生の式辞をビデオで観ていて、用意された原稿通りに読んで祝辞を述べているのが、すごく残念でした。

こういう時こそ、先生の想いを子供達に向かって本音で語って頂けたらと思いました。

先日、高校の校長先生が脅迫メールを送って逮捕された報道の折、卒業式で生徒に語っていた祝辞が紹介されていたのと重なり、伝える側の説得力、生き方、係わり合いへの想いって、聞いている側は、とても敏感に感じる、逆に想いに応える向き合う力というのを、生徒は一人ひとり育んでいるということをつくづく感じました。

だから、今回のことを伺って、一層、素敵だなと実感し、今のような感想を持ちました。

⑤感想読ませていただきました。

彼らは夢について、仕事について、まっすぐに考えている人たちだなと思いました。

ステキなつながりですね★

④阿部節は当然、貴方の心からの発信ですから、表情筋も駆使するはず。

だから素直に伝わるんです(笑)。& 趣きのあるイケメンだし(笑)。

③阿部さんの声が聞こえてきそうな授業の写真をありがとうございました。

また、貴重な体験を子供たちにありがとうございました。

②HP、見せていただきました。

小学生相手ということで言葉遣いや表現はやさしくても、やっぱり阿部節のようですね(笑)

阿部節は万国語、もとい万人節でしょうかね。

②への私(阿部)の返信

梅津八三(東京大学名誉教授:教育学者)の「いつ、どこでも、誰とでも、仕事は出来る。」という言葉が、何となく理解できるようになりました。

相手が小学生であろうが、学生、大人、プロであろうが、自分の想いをどう語るかが、今の僕の仕事。

その語る内容は、要は相手に生きていく喜び、勇気を持ってもらい、元気づけることかな。

相手に合わせてどう話すかを工夫するのは、僕の力量が問われることですから、勉強になります。

つまり、どう生きるかの思考にはゴールはなし。

梅津先生のいう「教育とは、あえて比べず、互いに助け合いながら、どう生きるかを自らに問い続ける活動」を実践中。

①小学生のみなさんの感想文嬉しいです。

今の小学生は（我が家の娘を含め）情報過多の世情のためか意外に冷めたクールな部分と、また、本来の子どもらしい無邪気で純真なところが混在しており、子ども本人も混乱している部分があるかもしれませんね。

阿部先生のような夢を語る大人から本気の話聞くことはかけがえのない機会になり、子ども達のこころの宝箱の中に入ったかもしれませんね。

それがいつか芽吹くかもしれませんね。